

事例番号:300383

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第四部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

2 回経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 17 週 血圧 139/88mmHg、再測定で 142/84 mmHg

妊娠 31 週 血圧 131/88mmHg、再測定で 141/96mmHg

妊娠 32 週 2 日 血圧 152/100mmHg

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 32 週 5 日

21:25- 性器出血を認める

22:02 異常出血のため入院

超音波断層法で持続する徐脈を認める

#### 4) 分娩経過

妊娠 32 週 5 日

22:20 胎児機能不全、常位胎盤早期剥離疑いのため帝王切開により児  
娩出

22:21 胎盤娩出とともに多量の血腫排出あり

胎児付属物所見 胎盤は約 50-75%の剥離面積

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:32 週 5 日

(2) 出生時体重:1492g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 6.976、PCO<sub>2</sub> 68.7mmHg、PO<sub>2</sub> 24.2mmHg、

HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 15.2mmol/L、BE -18.2mmol/L

- (4) Apgarスコア:生後1分0点、生後5分4点
- (5) 新生児蘇生:気管挿管、人工呼吸(チューブ・バッグ)
- (6) 診断等:  
出生当日 重症新生児仮死、極低出生体重児、早産児
- (7) 頭部画像所見:  
生後1ヶ月 頭部MRIで大脳基底核・視床に信号異常を認め、低酸素・虚血を呈した状態を反映する所見

## 6) 診療体制等に関する情報

- (1) 施設区分:病院
- (2) 関わった医療スタッフの数  
医師:産科医4名、小児科医1名、麻酔科医1名  
看護スタッフ:看護師2名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、常位胎盤早期剥離による胎児低酸素・酸血症であると考えられる。
- (2) 慢性高血圧が常位胎盤早期剥離の関連因子となった可能性がある。
- (3) 常位胎盤早期剥離の発症時期は特定できないが、妊娠32週5日の21時25分頃またはその少し前の可能性があると考えられる。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価

### 1) 妊娠経過

- (1) 妊娠中の管理は一般的である。
- (2) 妊娠31週の妊婦健診において、血圧上昇(131/88mmHg、141/96mmHg、130/80mmHg)および胎児発育不全(胎児推定体重1250g)を認め、1週間後に再検査としたことは選択肢のひとつである。

### 2) 分娩経過

- (1) 妊娠32週5日の妊産婦からの性器出血多量との電話連絡への対応(胎動と下腹部痛の有無を確認しすぐに外来受診することを勧めたこと)は一般的である。

- (2) 妊娠 32 週 5 日の入院後に妊産婦の症状(性器出血、腹痛、胎動の自覚は不明)と超音波断層法所見(持続する胎児徐脈)より、胎児機能不全、常位胎盤早期剥離疑いと診断し、帝王切開を決定したことは一般的である。
- (3) 帝王切開決定から 17 分後に児を娩出したことは適確である。
- (4) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

### 3) 新生児経過

- (1) 出生時、第一啼泣なく聴診上心拍数を確認できない状況で施行した新生児蘇生処置について、診療録に記載がないことは一般的ではない。
- (2) 生後 2 分以降の新生児蘇生(気管挿管、チューブ・バッグによる人工呼吸)、および当該分娩機関 NICU に入院管理としたことは一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

- (1) 児に実施した処置を診療録等に記録することが望まれる。緊急対応によりその時点で記録できない場合は、できる限り速やかに診療録に記録することが望まれる。
- (2) 慢性高血圧のある妊婦や妊娠高血圧症候群を発症した妊婦では常位胎盤早期剥離の発生リスクが上昇することから、常位胎盤早期剥離の初期症状(出血、腹痛)や発症時の対応について、妊産婦に周知することが望まれる。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

- ア. 妊娠中の喫煙は妊娠・出産に悪影響を及ぼす可能性があるため、妊娠初期からの禁煙の重要性を妊産婦に周知することが望まれる。
- イ. 常位胎盤早期剥離は、最近の周産期管理においても予知が極めて困難であるため、周産期死亡や妊産婦死亡に密接に関与する。常位胎盤早期剥離の発生機序の解明、予防法、早期診断に関する研究を推進することが望まれる。

#### (2) 国・地方自治体に対して

なし。